

平成29年度 第1回 宮城県看護協会 潜在看護職員復職支援研修

9月25日、潜在看護職員復職支援研修がスキルスラボにて開催されました。この研修会は、看護職の免許を保有しており現在業務に就いていない人が、最近における看護の知識及び技術を修得することによって、看護師としての復職をサポートする目的のもと、宮城県看護協会が主催しています。

午前の研修では、東北大学病院東13階の上溝師長が「患者急変時の対応・救急蘇生の実際」について講義を行いました。講義は、急変時の対応方法を中心に、院内での急変だけでなく、院外で急変に遭遇した時の話など、上溝師長の経験談が豊富に盛り込まれた内容となっており、実際にあったエピソードに対して、受講者の方々は自身の経験を重ね合わせるように時折頷きながら聴講していました。講義後は、3名1組になり、最新のガイドライン（2015年版）に基づく一次救命処置の演習が行われ、意識の確認から救急要請、胸骨圧迫・人工呼吸（バッグ換気）、AEDの使用までの流れを、役割を交代しながら実技を行いました。

午後の研修では、東北大学病院西14階の庄島副師長から「医療機器の安全使用」と題し、感染予防策と東北大学病院で実際に使用している医療機器に関する講義が行われました。講義後半では、輸液ポンプ・シリンジポンプの操作方法について確認したり、血糖測定器を用いて自身の血糖値を測定してみたりと、現在使用されている医療機器を実際に操作してみる機会が設けられました。その他にも、看護用物品について、従来主流だったものと最近主流になっているものとの、使用方法の比較を交えた紹介があり、臨床を離れていた受講者にとっては、復職するにあたり有益な情報を得ることが出来たようです。

